

加藤櫻老 かとうりゅう 儒者。文化八年七月二十八日常陸國水戸生れ、明治十七年十一月十二日歿（八二一益）。講義、宇治教、幼名百出吉、百出入郎、通稱百隆、佐藤源六、山田貢、加藤隣。別號神陰、櫻山人、穆軒、藤漁等。水戸藩士佐藤政祥の子、文政七年生立附藩士の外祖、父加藤信義の養嗣子となる。初の森田櫻園に就學、十一歳藩費貯蓄館都講となり、次で會澤止志齋、藤田東湖に學ぶ。弘化元年藩政に建言して閉門を命ぜられ、のち水戸藩主徳川齊昭の處分に際し雪冤を奔走。文久三年の政變で長州に赴き、藩費明倫館教授となりた。慶應二年詠歸塾を開く。維新後は軍務官御用掛、漢學所御用掛等歴任、明治五年教部省出任。

今様歌を能くし、『一騎歌盡』（神陰先生・加藤漁名、文久三年初秋福田氏藏板、和泉屋金右衛門板）を著ほした他、『古今今様集』（明治十一年七月聚星館）を編集出版。また、『十三山書樓尺牘箋釋』（昭和九年十一月十五日茨城・加藤櫻老先生顕彰會編刊）と題する書翰集、馬杉繫（雪外）撰『櫻老生譜』（内題「櫻老加藤先生生譜」明治二十四年四月加藤正生刊、復刻版・昭和九年十一月十五日加藤汎彦刊）がある。

